

研修名 **保育士研修D「まなび」** **研究発表と質疑応答**
令和2年2月21日（金） 9：45～12：15

研究発表

- 発表①** 『医療的ケアA児と仲間の友育ち（年長児クラスの事例から）』
発表② 『社会の中で子どもたちの育ちを繋ぐ保育園の役割とは』
 ～地域・学校・家庭との連携の中で、子どもたちの育ちを考える～

指導助言 **仁愛大学 人間生活学部子ども教育学科**
 人間生活学部長
 教授 石川 昭義 氏

1 講習要旨

幼保連携型認定こども園 みんなのき黄檗こども園

1）研究・実践の良かったところ

①研究の目的と方法について

- ・研究の目的がしっかりとしている。仮説の設定も。
- ・研究方法としての事例研究、園内アンケート、園内研修による討議の3点で全体を構成。

②子どもについて

- ・A児を特別扱いしている様子が見られない。周りの子どもは気にかけている。
- ・保育者のA児に対するかかわり方をよく見ている。
- ・インクルーシブ(教育)保育のあり方に示唆を与える内容。

③保護者について

- ・加配保育士のとった「微妙な距離感」は絶妙だったと考えられる。
- ・法人の理念を理解したうえでなされる日頃の実践（A児を知っている職員も知らない職員も）。職員間のコミュニケーションが盛んに行われた。

④環境・助言

- ・座っている時間が多い時期から、立って動ける時期へ。視野が広がり、自分でしようとする意欲を生み出す。

2）今後の研究で期待されるところ

①医療的ケア自体のスキル(介助等)の向上について記載があると良かった。看護師とは違う「保育者」として、何をどこまでできるか、職種連携について。

②「A児の保育に関わることで保育者の成長」について様々なケースを想定しながら、保育者の成長のモデル化を試みてほしい。

③園内アンケートについて、継続的に行うことが望ましい。その際、4件法(例: とても当てはまる、まあまあ当てはまる、あまり当てはまらない、当てはまらない)で回答してもらうと変化が出て、個人の変容ぶりも追跡できる。

④「寄り添う」(寄り添いに関しての質)とはどういうことか?

公益財団法人鉄道弘済会 福知山保育所 さくら保育園

1) 研究・実践の良かったところ

①研究の目的と方法について

- ・地域にある保育所の役割(存在意義)について「仲立ち」という考え方で確かめた。かつての多元的人間関係の中で子どもが育つということ。
- ・園からの情報発信の事例が丁寧に描かれており、「関係者評価」を行っているといってもよい事例。

②情報発信について

- ・地域とのつながりの中で情報共有の大切さがわかる。「ケースに上がる児童や家庭への直接的な支援を行うことはできないが…」の苦労もにじみ出ている。

③小学校との連携について

- ・子どもの育ちを連続性としてとらえる、一貫性をもって発達を支える。

④家庭との連携について

- ・子どもが自己効力感を抱くことに作用した。
- ・「お手伝いの感想」の掲示を見ることで、わが子以外の子どもを褒めるきっかけを作ったかもしれない。また、配慮を要する家庭のケースでは、“お手伝い券”でどのような「配慮」が必要だったか。

2) 今後の研究で期待されるところ

①公開保育をすることによって(小学校の教師に見てもらうことが)保育の内容や方法にどのような変化をもたらすのか、また、小学校サイドでは公開保育の体験がどのように小学校で生かされるかについての研究。

②10の姿に関する合同研修の開催。

③保育要録の記載及びその具体的な活用について、小学校との共同的な研究。

④アプローチカリキュラムの実践による成果と課題。

⑤保育園が地域と家庭の仲立ちに必要な保育士の専門性(知識と技能)について。

2 感想

今回の発表をうけ、子育て支援には家庭だけでなく地域、学校、社会全体で連携を取り合うことが保育現場では不可欠であることや、中心となって発信していく重要性を強く感じさせられ、今後の保育に生かしていきたいと思いました。

(記録 木津川市やましろ保育園 岡 淳子)